

授業概要

アメリカ文学/文化における他者のイメージ — 他者像を検証することで、文化言説を考察する。

上流階級の白人の男性たちの対極におかれ、迫害されてきた黒人、女性、労働者について考えてゆく。現代思想をまじえエドガー・アラン・ポーをはじめ、映画を活用しつつ、アメリカ文学を中心に新しい文学論を展開してゆきたい。

授業計画

第1回	イントロダクションー文学とは何か
第2回	文学批評理論 — 新批評からデコンストラクションまで
第3回	文学批評理論 — 新歴史主義からポスト・コロニアリズムまで
第4回	文学批評理論 — カルチュラル・スタディーズとアダプテーション理論
第5回	ポーにおける女たち(1) — 「黒猫」を読む
第6回	ポーにおける女たち(2) — 「アッシャー家の崩壊」を読む
第7回	ポーにおける脅威の猿 — 「モルグ街の殺人」から『キングコング』へ
第8回	ポーにおける身体障害者 — 「ホップ・フロッグ」「使い切った男」
第9回	南北戦争前の文学とホモソーシャル — ナサニエル・ホーソン『緋文字』を読む
第10回	アメリカ文学におけるクイアー — フィッツジェラルド『グレートギャビー』の映画比較
第11回	H・P・ラヴクラフト論(1) — クトゥルフ神話における他者
第12回	H・P・ラヴクラフト論(2) — 優生学と人種差別
第13回	文学における進化論 — 自然主義文学 ジャック・ロンドンとフランク・ノリス
第14回	文学における人造人間 — 『フランケンシュタイン』から『ブレードランナー』へ
第15回	読書終焉の世界 — レイ・ブラッドベリ『華氏416度』
第16回	定期試験

到達目標

他者という存在について考察し、文学を通して他者理解ならびに異文化理解を追究したい。また多くの小説の名場面に触れることで、活字の世界への関心がわき、国語力のアップにもなることを目指す。

履修上の注意

言うまでもなく授業中の私語、睡眠は許されない。マナーを尊重して楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な参加を望みたい。大量の資料を配布するのでファイルを持参のこと。時に暴力的な映像を見ることがあるので、苦手な人は注意してほしい。できるだけ普段から関心をもって本を読むように心がけてもらいたい。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再び読み直してほしい。

評価方法

学期末試験（60%）、提出物およびコメントペーパー（40%）などの総合評価。

テキスト

主にプリントなどの配布資料 また参考文献については適宜指定する。